

人文社会科学部後援会事業実施報告

経済地理学ゼミナール

(人文社会科学部・メジャー専門ゼミナールⅠ・Ⅲ)

- ・申請教員：松尾卓磨（現代社会学科 国際・地域共創メジャー 講師）
- ・事業番号：1－44
- ・実施日：2025年6月1日（日）
- ・場所：東京都墨田区京島地区、台東区谷中銀座、千代田区皇居界限
- ・内容：日帰りゼミ巡検
- ・参加者：3年生7名、4年生1名、引率教員（松尾）

ゼミナール授業の一環として東京都内において日帰りの巡検を行った。ゼミに所属している3年生と4年生が参加し、人文地理学の知識や視点を活かしながら、地域・場所・景観の歴史と現状に関する地理学的洞察力を養うことを目的として、東京都墨田区の京島、台東区の谷中銀座、千代田区の皇居を訪問した。京島では銭湯「電気湯」の店主にお力添え頂き、街の見所や地域変容の様相が顕著に見て取れる場所にご案内頂いた。木造家屋や細街路など都心部では見られない景観に加え、アーティストやクリエイターの工房や活動拠点を見学することができ、電気湯店主や職人の方から数々の貴重なお話をお聞かせ頂いた。台東区の谷中では観光地として有名な銀座商店街を練り歩き、店舗構成や来訪者の属性に観察の目を向けた。商店街全体の賑わいもさることながら、商店街入口付近での集合住宅建設や外国人観光客の多さが特に印象的であった。皇居では厳かな雰囲気を感じ由緒ある建築物を目にしながら、場所や景観がまとう意味について考えた。皇居内の広場が憩いの空間となり、子どもたちが走り回ったり外国人観光客らが気ままに過ごしたりしている光景には驚きと意外性を感じた。学生・教員ともどもその雰囲気を味わうために芝生に腰を下ろし、今回の東京巡検で得られた知見や感想を共有した。現地に足を運び五感を使って街や場所について学ぶことの重要性を再確認することができた。

2025年10月27日 松尾卓磨



墨田区 京島地区

銭湯「電気湯」を訪問しました。人とお風呂だけでなく、人と人、人と街をつなぐ拠点になっています。全国的に銭湯の数が減少する中で、まちづくりやコミュニティの核として銭湯の存在価値が見直されています。



墨田区 京島地区

空襲を免れた結果、多くの木造家屋と細街路が残り、都心部では見られない都市景観が広がっています。建物の取壊しや新築住宅の建設が進む中、アーティストやクリエイターによる空間資源の活用や地域の高級化に抗う取り組みが進められています。



台東区 谷中銀座

日曜日ということもあり多くの観光客や買い物客で賑わっていました。撮影スポットとして有名な商店街の入口横では集合住宅の建設が進んでいました。お寺の骨董市にも足を運び、海外のお皿や置物の出品も多く、外国人観光客の姿もちらほらと。



台東区 谷中銀座

多くの飲食店がひしめき合う谷中銀座。全員で入れるお店を探しましたが、日曜のお昼時ということもあり、別れてお店を探すことに。日暮里駅から千駄木駅間の高低差を体感しながら、「昔」と「今」が混在する商店街の様子を観察しました。



千代田区 皇居

東京には何度も行っているけど、皇居には行ったことが無い、そういった声に応じて訪問先にしました。高層ビルが林立する大手町から木々の生い茂る皇居へ。厳かな雰囲気を感じ由緒ある建物を目にしたしながら、場所や景観がまとう意味を考えました。



千代田区 皇居

皇居にある憩いの空間。汐見坂をのぼった先に広がる大奥跡と本丸跡が街中の緑地公園のように利用されていて驚きました。子どもたちの元気な声が聞こえ、外国人観光客があちこちで寝そべっている。皇居の知らない一面を垣間見ることができました。

(撮影・説明 松尾卓磨)